

亜細亜大学国際オープンテニス2019



3月14日(木)本戦3日目



亜細亜大学
ASIA UNIVERSITY

ハイライト

大会4日目を迎えた本日は、シングルスとダブルスの2回戦が行われた。今大会は昨年までと大会のグレードが変わり賞金総額2万5千ドルに格上げされた為、シングルスの2回戦に勝つとWTAポイントを5点獲得できるとあって選手たちの雰囲気も一層シビアなものとなった。

午前10時よりEコートで行われた第1試合では第8シードの小堀桃子選手(橋本総業ホールディングス)が15歳の新星ダリア・ロパテスカ選手(ウクライナ)と対戦。試合は第1セットファーストゲームから動き出しロパテスカ選手がいきなりブレークに成功すると、爆発力のあるサービスとフォアハンドを武器に試合を優位に進めていく。

対する小堀選手は出鼻を挫かれ難しい立ち上がりとなり、得意のカウンターショットを打たせてもらえず本来のリズムでプレーすることが出来ない。第1セット第4ゲームのロパテスカ選手のサービスゲームで小堀選手にブレークバックのチャンスが訪れるも好機を生かせずそのゲームを落とすと試合の流れは一気にロパテスカ選手へ傾き第1セットを6-1で奪う。セカンドセットに入ると小堀選手も反撃を開始し得意のカウンターショットやバックハンドのダウンザラインでポイントを重ねていく。お互いブレークを繰り返す荒れた試合展開となったが小堀選手はロパテスカ選手の強打に対し最後まで完璧な対応をすることが出来ずセカンドセットを5-7で落とし無念の2回戦敗退となった。Eコートの第2試合には今大会第5シードであり昨年の全日本選手権女子シングルスチャンピオンの清水綾乃選手(Clud MASA)と2015年の全米オープンのシングルス本戦にも出場している日比万葉選手(グラムスリー)の実力者2人が登場した。どちらもベースラインでのプレーを得意とするだけに試合は激しい打ち合いとなった。清水選手は回り込みのフォアハンドを軸にしながらか攻撃的なプレーを展開し、日比選手はバックハンドのスライスを多用するなど緩急をつけたプレーで清水選手の得意なリズムでプレーさせないように工夫する展開が続いた。しかし今大会のコートサーフェスは球速が速いこともあり清水選手の強烈なフォアハンドに日比選手が徐々に対応できなくなり試合は予想に反して一方的な展開に。日比選手はネットプレーに出るなど引き出しの多い多彩なプレーで反撃を試みるも本日好調の清水選手を攻略するには至らず。6-2.6-3で清水選手が勝利し、3回戦に駒を進めた。

ダリア・ロパテスカ選手



小堀桃子選手



清水綾乃選手



一注目のカード

クイン・グレーソン選手(アメリカ)

VS

レベッカ・マリノ選手(カナダ)

予選から勝ち上がり勢に乗るクイン選手と元世界38位まで上り詰めているレベッカ選手の激しい打ち合いに注目。

